

☆年間第15主日(7月16日)の聖書朗読☆※主任司祭からの解説があります。

第一朗読 (イザヤの預言 55章 10-11節)

主は言われる。

雨も雪も、ひとたび天から降れば

むなしく天に戻ることはない。

それは大地を潤し、芽を出させ、生い茂らせ

種蒔く人には種を与え、食べる人には糧を与える。

そのように、わたしの口から出るわたしの言葉も

むなしくは、わたしのもとに戻らない。

それはわたしの望むことを成し遂げ

わたしが与えた使命を必ず果たす。

第二朗読 (使徒パウロのローマの教会への手紙 8章 18-23節)

皆さん、現在の苦しみは、将来わたしたちに現されるはずの栄光に比べると、取るに足りないといわたしは思います。被造物は、神の子たちの現れるのを切に待ち望んでいます。被造物は虚無に服していますが、それは、自分の意志によるものではなく、服従させた方の意志によるものであり、同時に希望も持っています。つまり、被造物も、いつか滅びへの隷属から解放されて、神の子供たちの栄光に輝く自由にあずかれるからです。被造物がすべて今日まで、共にうめき、共に産みの苦しみを味わっていることを、わたしたちは知っています。被造物だけでなく、“霊”の初穂をいただいているわたしたちも、神の子とされること、つまり、体の贖われることを、心の中でうめきながら待ち望んでいます。

福音朗読 (マタイによる福音書 13章 1-9節)

その日、イエスは家を出て、湖のほとりに座っておられた。すると、大勢群衆がそばに集まって来たので、イエスは舟に乗って腰を下ろされた。群衆は皆岸辺に立っていた。イエスはたとえを用いて彼らに多くのことを語られた。「種を蒔く人が種蒔きに出て行った。蒔いている間に、ある種は道端に落ち、鳥が来て食べてしまった。ほかの種は、石だらけで土の少ない所に落ち、そこは土が浅いのですぐ芽を出した。しかし、日が昇ると焼けて、根がないために枯れてしまった。ほかの種は茨の間に落ち、茨が伸びてそれをふさいでしまった。ところが、ほかの種は、良い土地に落ち、実を結んで、あるものは百倍、あるものは六十倍、あるものは三十倍にもなった。耳のある者は聞きなさい。」

朗読解説 一主任司祭より皆様へ一

信徒の皆さま、今日はとても暑い日です。そして大変うれしい日です。足立教会で主任司祭を務めてこられたフェリカニ神父様が叙階されて60周年を迎えられ、教会でお祝いすることができるからです。若い人たちにはフェリカニ神父様のように、神さまに仕える人が一人でも出てきてほしいと思います。

梅雨の終わりを迎えています。日本の各地で大雨の災害が起こり、犠牲となって亡くなられた方がおられます。その方々の永遠の安息のために祈りを捧げましょう。さて今日のミサでは私たちにどのようなことが神さまから呼びかけられているのでしょうか。朗読の中では種まく人の話がでてきます。どんな内容なのか気をつけて聞いてみましょう。

第一朗読 (イザヤの預言 55章 10-11節)

今の時期に雨の話はどうかと思われませんが、雨や雪の恵みは多いと述べています。大地を潤し、植物の芽を出させ、成長させ、実らせるのです。それと同じように神さまからの恵み、神のみ言葉は必ずその使命を果たされる

と述べています。ミサで朗読されることは、聖書を取って読む人に語り掛けられる神のことは、神のことは伝える奉仕者の言葉などは決して無駄にはならないのです。ミサ中に聖書を朗読する役割を担った人の朗読の言葉はまさに神が私たちに語り掛けられる言葉なのです。そしてそれは決して無駄にはならず、神の望まれることを必ず成し遂げて神のもとに帰るのです。

第二朗読（使徒パウロのローマの教会への手紙 8章 18-23節）

パウロの手紙のこの個所では「うめき」という言葉が印象的です。「言葉にできない心の葛藤」とでもいうのでしょうか。被造物全体がうめいていると言っています。何を意味しているのでしょうか。神の望みによって造られた被造物がその望みに反して生きており、しかしその心のうちは神の栄光に輝くものになりたいと望みうめいているのです。人間は人間以外の被造物は何も感じずに生きているように見えますが、実はその被造物自身もうめいているのです。その原因は人間にあるのではないのでしょうか。人間が被造物を呻かせているのではないのでしょうか。イエスの霊による解放が待たれます。

福音朗読（マタイによる福音書 13章 1-9節）

有名な種まきのたとえ話が語られます。今日はその話の中での「良い土地」について少し考えてみましょう。良い土地の条件とは何でしょう。植物が育つ条件を叶えている土があることでしょうか。その条件は、水分が保たれていること、土の間に空気が含まれていること、ミネラルなどの栄養分が豊富にあること、適度な温度があること、根が張りやすいように柔らかなこと、そして光が当たっていることなどでしょう。今回の洪水のように大量の雨が降るとその条件が壊滅します。それで人々はその土地をまた植物を成長させる良い土地にするためにたゆまず耕し続けるのです。畑に流れ込んだ土は空気を遮断し、根を窒息させるので早く取り去ることが必要になります。その人間の手伝いをする優れた生き物がいます。ミミズです。ミミズは畑を耕す大事な生き物です。私たちが神のことはまかれて百倍の実りを得るには私たちの心を耕すことが必要です。私たちにはミミズが必要です。それは

祈りと心を耕す黙想のひと時です。ミミズを見たら、私の心を耕す必要を思い出しましょう。



良い実りは耕された良い土による (2023年7月)

P.S.

フェリカニ神父様を囲んでお祝いのパーティーがあります。たくさん参加してください。

教会の防水工事は8月頃工事が始まります。皆様方には様々な面でのご協力をお願いすることになりますのでよろしくお願いいたします。

カトリック足立教会
主任司祭 野口重光